



沖縄にはなぜ鉄道がないの

昔は鉄道があった

沖縄県は、たくさんの小島でできている県です。全部の島の面積を合計しても、東京都より、やや広いくらいです。いちばん大きい島は沖縄島（沖縄本島）ですが、その面積は、都道府県のなかでいちばん小さい香川県の、3分の2くらいです。それほど小さい沖縄島にも、50年あまり前までは、鉄道がありました。

県営鉄道と民営鉄道

1872（明治5）年に、新橋と横浜の間で、初めて鉄道が開通してから、日本の各地で、鉄道が建設されました。沖縄島でも、1914（大正3）年からの10年間に、県営鉄道4線（うち1線は貨物専用線）と、民営鉄道2線が、開通しました。民営鉄道は、今の市電・都電のような形の電車（沖縄電気軌道）と、馬が引く鉄道馬車（糸満馬車軌道）でした。

鉄道がなくなったわけ

昭和時代にはいって、路線バスが走り始めると、民営鉄道の2線は、乗客が減って経営が苦しくなり、つぎつぎになくなりました。県営鉄道も、太平洋戦争で沖縄島が戦場になったときに、線路や車両をこわされ、列車を走らせることができなくなりました。戦後も沖縄島を治めていた、自動車の発達しているアメリカは、鉄道を修理しませんでした。1972（昭和47）年には、沖縄県が日本へ返されましたが、日本政府は、沖縄島の鉄道を修理して、ふたたび列車を走らせようとは、考えなかったのです。そのころはすでに、陸上輸送の主役が、鉄道から自動車に、かわってきていたのです。その後も長らく、鉄道がなくなつたままでしたが、最近はその那覇市で、モノレールが建設されており、これが走り始めるのは、2003（平成15）年12月の予定です。（監修・青木 国夫）

